

## 第105回日本精神神経学会総会



## 委員会提案の用語または訳語について

鈴木 二郎 (精神神経学用語委員会委員, 山王精神医学心理学研究所鈴泉クリニック)

## I. 委員会提案の用語全般について

1. 今回の用語集の改訂にあたり, 委員会の討議の中で, 用語に関して委員が合意して目指したいくつかの点を述べる.

- ①内容を的確に表現していること.
- ②できるだけ簡略で, わかりやすいこと.
- ③美しい言葉にすること.

2. さらに会員から寄せられた意見に答える必要があると考えられた点.

- ①誤植の多さは委員会内でも注意し, 補遺で訂正した.
- ②ある単語 (例; 抑うつ) が他の単語に続けて用いられる場合と用いられない場合があるが, 慣用されているか否かで決定し, 必ずしも形式的に同様でない場合がある.
- ③歴史的用語の選定も討論のうえ決定した.
- ④日本語に対応する外国語としての基準は, 凡例に記した通りであるが, 全て完全でないのは, 指摘されている通りで, 補遺である程度修正した.

## II. 委員会提案の用語または訳語

1. この改定作業の過程で, 問題になった2点の実例を取り上げて用語委員会の意図を解説したい (下記第2, 第3ともに改定版では, 誤植や未変更があるが, 補遺で修正されている).

2. 古くから片仮名表記されてきた用語

- ①ワーンジン Wahnsinn (D)→妄覚錯乱

この語は, 精神神経学用語集第5版では, ワーンジンと仮名書きされている.

Wahnsinn; 一般のドイツ語では, 精神異常, 狂気をいう.

意味としては, 比較的急性に発症し, 幻覚, 被害妄想, 不安を主症状とし, 概ね意識は清明であるが, 時に見当識は障害されている. 種々の成因による.

W. Griesinger (1845) の教科書には記載されている.

Kraft-Ebing の教科書 (1874) には記載されていない.

H. Neumann (1885) や C. Wernicke の教科書には記載されている.

E. Kraepelin の教科書 (1904, 第6版以後) に用いられている. 用い方によると,

用例: Hallucinatorische Wahnsinn der Trinker

Cocainwahnsinn, Depressiver Wahnsinn, Schizophrener Wahnsinn

E. Bleuler (1916) (Kraepelin は, すでに上記教科書に引用している)

用例: Melancholischer Wahnsinn, Periodeischer Wahnsinn

Meinert には Akuter Wahnsinn の記載がある.

これに対する我が国の訳語は以下のようなものである. 呉秀三は精神病学集要 中篇 (1894年) で次のように用いている.

“わあんじん”; 中酒性わあんじん, こかいん

わあんじん、慢性中毒の経過中に起る、精神が進行的に衰弱してその間に妄覚的譫妄的錯乱発作

石田昇は新撰精神病学（1906年）でつぎのように述べている。

幻覚性酒客妄想狂；hallucinatorische Wahnsinn derTrinker；

清明なる意識の下に、妄覚に起因する追跡妄想を急発するを以って主徴とす。

これに対して下田光三、杉田直樹、三宅鑛一各先生記載なし。

新版精神医学事典にも項目なく、単一精神病の項目にグリーンジャーの説紹介（宇野昌人氏）の中にWahnsinnの語があるのみである。

精神神経学用語集第5版では、ワーンジンと仮名書きされている。

英語では、概略deliriumに含まれるとされているようである。

委員会提案では、単なる錯乱と区別するため、妄覚錯乱を提唱する。

但し歴史的用語と考えてよいであろう。

## ②コロ Koro (China)→縮陽症

アジア各地にみられる文化結合症候群のひとつで、「陰部が腹部内に収縮してしまい、結果として死に至る」との確信からパニック症状が起きる症状である。

中国語で縮陽症と表記されている。

Dr. Wang Zu Cheng (Shanghai Mental Health Center) による私信。

委員会提案では、これを日本語でも用いるとする。

## 3. ICD や DSM の訳語にもとづく用語

1) ICD や DSM は、現在統一の動きがあるやにきくが、少なくとも前者は国内で公式に用いられていることもあり、学会として公式の訳語が決定されても良いと思われる。ICD, DSM ともに翻訳が、有志の努力によってなされて、多くの訳語は妥当であるが、やや的確でない場合があり、今回多くの議論がされ、下記の2語

に関して新しい提案をしたい。

①conduct disorder (E) 行為障害→素行障害あるいは行状障害

②disruptive behavior disorders (E) 破壊的行動障害→規則違反的行動障害あるいは攪(かく)乱行動

### 2) 具体的提案

①conduct disorder (CD) 行為障害→素行障害あるいは行状障害とする。

CDは、DSM-IV、ICD-10の訳語では、行為障害と訳されている。CDの意味は、反復し、持続する暴力や器物損壊など反社会的、攻撃的、反抗的な、他者の権利を侵害する行為を認めることである。Conductは、単なる行為ではなく、行状、品行を意味し、素行は、素行不良など多少倫理的意味合いもあり、内容的にも行状障害が妥当ではないか。

③disruptive behavior disorders (DBD) 破壊的行動障害→規則違反的行動障害、あるいは攪(かく)乱行動

disruptiveは「英辞郎」によると、破壊的な、分裂的な、崩壊的な、混乱をおこさせる、破裂して生じた、秩序を乱すなどの意味である。これらの用語は、DSM-IV-TRでは、disruptive behavior disordersは、下記CDやODDの上位概念である。ここでconduct disorder (CD)は暴力や器物損壊など他者の権利を侵害する行為を認める事が特徴である。oppositional defiant disorder (ODD)は、拒絶的、反抗的、挑戦的な行動様式とされている。

これに対しICD-10では、CDが上位概念であり、ODDは、軽症型下位分類であり、その症状としてdisruptive behaviorがある。いずれにしてもdisruptive behaviorは、小児の行動の記述に多く用いられており、子どもの行動の正常と連続する領域を示すと考えられる。例えば、disruptive mealtime behaviorなどがある。したがって事物を破壊する意味の強い破壊行動や、あるいはやや堅

すぎる規則違反的行動障害より攪（かく）乱行動のほうが妥当ではないか。

### Ⅲ. ま と め

1. 古くから片仮名表記されてきた用語や ICD や DSM の訳語に基づく用語に関して新しい用語を提案した。
2. 古くから片仮名表記されてきた用語

①ワーンジン→妄覚錯乱

②コロ→縮陽症

3. ICD や DSM の訳語に基づく用語

①行為障害→行状障害あるいは素行障害

②破壊行動→攪（かく）乱行動あるいは規則違反的行動障害

4. 今後とも会員各位からのご意見をいただき、より良い用語集を編纂することを目指している。